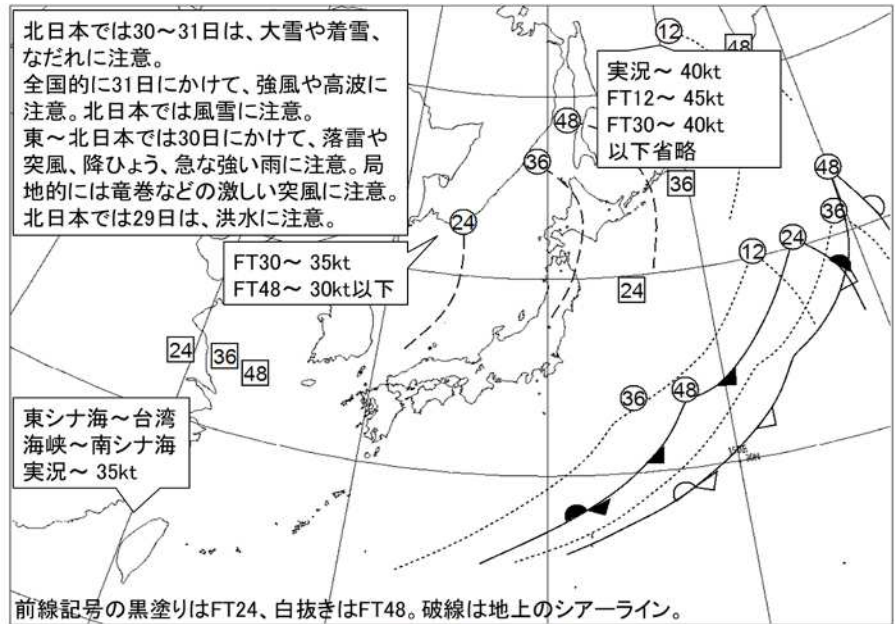


## 1. 実況上の着目点

- ① オホーツク海に前線を伴う低気圧があって、北北東進。また、日本の東にも前線を伴う低気圧があって、北東進。東～北日本には850hPa-6°C以下の下層寒気が流入し、北海道地方では3時間に5～10cm前後の降雪を観測している所がある。
- ② ①の前線や低気圧と大陸の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、全国的にやや強い風や強い風が吹き、波が高くしけとなっている所がある。



主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 500hPa5220m付近の-39°C以下の寒気を伴うトラフに対応し、29日夜までに日本海で低気圧が発生し北東進、31日朝にはサハリン付近へ進む。また、低気圧からのびる地上のシアーラインが30日に北日本を通過する。シアーラインや低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、上空寒気の影響が加わり、大気の状態が非常に不安定となる所がある。東～北日本では30日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 2項①の低気圧後面となる北日本には、30～31日に850hPa-12°C以下の寒気が流入し、降雪が強まり大雪となる所がある。北日本では30～31日は、大雪や着雪、なだれに注意。
- ③ 1項①のオホーツク海の低気圧は、30日にかけてオホーツク海を北上する。この低気圧及び2項①の低気圧と大陸の高気圧の間で気圧の傾きが大きくなり、雪を伴った強い風が吹き、波が高くしけとなる所がある。全国的に31日にかけて、強風や高波に注意。北日本では、風雪に注意。
- ④ 28日までに流入した下層暖気と降水の影響で、北日本では29日は、洪水に注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。

## 4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。
- ③ 波浪(明日まで)：沖縄4、北海道・関東・伊豆諸島・近畿・中国・九州南部・奄美3m。
- ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では、注意報基準を超過する所がある。

## 5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。